第３２回　経営協議会議事録

日　時　平成２３年９月１２日（月）１４時００分～１５時３５分
場　所　事務局棟３階共通会議室
出席者　山本学長
赤木委員、樫畑委員、山口委員、松原委員、南委員
堀内、平田、盛本、帯野各理事
（中村監事、田中監事、池際副学長、乗杉副学長、川本教育学部長、木村システム工学部長、山田観光学部長、西村企画総務課長、葛西財務課長）
欠席者　なし
（遠藤経済学部長）

学長から、第３１回経営協議会（６月１７日）の議事録について、意見等の有無について確認があり、了承した。

議　事
１．平成２３年度第１次補正予算編成について
２．国立大学法人和歌山大学業務達成基準に関する取扱要項（案）の制定について
盛本理事から資料１及び２に基づき説明があり、審議の結果、了承した。なお、以下のような質疑応答、意見交換があった。
○補正金額の１億６千万円は大きい。施設整備費は文科省から別途措置されたのか。
→別途措置された。実質の補正額は７千万程度。
○学生納付金収入の見直し額も大きいが。
→当初予算での収入見込みは、過去３年の平均から算出している。
○科学研究費補助金間接経費収入も多いが。
→年度当初は計上していないため。
○教員免許更新講習収入が増えたのは。
→駆け込み需要が考えられるのと、本学の講習の評判が良いため。
○日本技術者教育認定継続審査経費については、なぜ補正で計上するのか。今年受けると分かっていたのではないか。
→決まっていた。システム工学部が受けるが、大学としても予算措置することとした。
○業務達成基準を採用する趣旨について説明願いたい。
→中期目標・中期計画期間内に運営費交付金を計画的に執行するため。

報　告

１．文部科学省国立大学法人評価委員会ヒアリング（8/29）の内容

乗杉副学長から資料３に基づき報告があった。

２．その他

〇帯野理事から和歌山・タイフィールドプログラムの概要について説明があった。

〇学長から、就任して２年間を振り返りまとめた資料、中央教育審議会生涯学習分科会での発表資料及び８月２５～２６日に行われた国立大学協会トップセミナーの内容について紹介があった。

その後、以下のような意見交換が行われた。

〇タイフィールドプログラムについて、和歌山大学についての明確なメリットはあるか。対等な関係を目指し、特定の国だけでなく地域を対象とすべき。そこから得たものをどう学生にフィードバックするかなどの構想のもとにすすめるべき。

〇補正予算に関して、災害の多いこの国では、いざ調査研究などを行うとなったときに次の補正を待つのではなく、即応できる予算組みが必要である。

→予算に関しては、学長裁量経費などで対応している。

また、要求を待つのではなくて、動機付け、問いかけも必要。

→地域の課題に機敏に対応できる体制を整備したい。

→タイに関しては、行動宣言の１項目の実現が目的で、ひとつの国に限定するのではなく、青年達が日本という狭い経験だけではなく、貧困であったり、社会的に困難であったり、国境に接しながら問題を抱えているような地域に入り生身の体験をしてもらって、他者を理解し問題解決に取り組むことができる実践力を養わせたいと考えている。何年か積み重ねてプログラムとして発展させたいと考えている。グリーンイノベーションなどでも、農村でのフィールドワークで、学生が大きく変わった例がある。都市部出身の学生が多いが、都市とは違う環境の中で、基礎的な力を追求するカリキュラムを組むことは本学ならではと考える。

〇タイの政治情勢は大丈夫ですか。

→大丈夫です。

〇海外派遣事業やNPOなどに参加した人はいい経験や問題意識を持っている。教員採用試験では大学院に入学した人は教員採用試験合格の猶予期間を持たせたりしている。同じように大学院に合格した人にも、こういう経験をした人には就学を猶予するという制度もいいかなと思う。

〇昔はアメリカに行きたいとか留学がはやりだったが、今は内向き。一方で日本の企業は貿易依存度を高め、国際的な人材を求めている。どのくらい足りないのかどのような人材を求めるのか、企業、大学の双方からの不満は聞こえるが、解決策は見えてこない。難しい問題である。

〇学生が被災地にボランティア活動に行ったが、外に出ると凛々しく意欲的であったりもする。学内にこのような例を広め、共有していきたいと考えている。

〇紀南の災害も相当なもので、本学としても、求められるもの対して役立つことのできる研究リソースを把握し、持続的に対応できるようにしたいと考えている。

以　　上